

17. グラスアイオノマー修復

<到達目標>

- ・ 歯科医師の指示に従える
- ・ ステップごとに報告できる
- ・ 患者にこれから行うことの説明ができる
- ・ 必要器材を準備できる
- ・ 歯口清掃を適切に行える
- ・ 適切なバキューム操作を行える
- ・ 手順に従ってタイミングよく器材を手渡せる
- ・ 患者に術後説明ができる
- ・ 後片付けができる

<設定場面>

35歯頸部の着色を主訴に来院した。冷水痛・温熱痛・自発痛はない。デンタルエックス線写真により楔状欠損と診断し、本日グラスアイオノマー修復を行うこととなった。

<診療手順>

1. 患者の誘導と説明

歯科医師：衛生士、助手に今日の治療内容を伝え、患者の誘導と説明を指示する。

助手：患者をチェアに誘導する。必要な器材を準備する。(消毒等も含む)

衛生士：処置内容を説明する。

患者：審美的な治療をしてほしい旨を伝える。

衛生士：歯科医師に患者の希望を伝える。

2. 歯口清掃 必要器材：歯面清掃用セット

歯科医師：衛生士・助手に歯口清掃を指示する。

助手：必要器材を用意する。

衛生士：標準診査のポジションで患歯を含めて清掃を行う。

3. 窩洞形成 必要器材：高速・低速切削具、う蝕検知液

歯科医師：衛生士、助手に窩洞形成をする旨を伝え、アシストを指示する。

助手：必要器具をそろえる。

歯科医師：窩洞の外形を高速切削具で形成し、う蝕検知液でう蝕の広がりを確認する。

う蝕を除去する。

形態の修正は低速切削具で行う。

衛生士：バキューム操作を行う。

チップの切り口は下顎方向に向け、口唇を少し持ち上げるように挿入する。

咽頭に溜まった水は臼後三角で吸引する。

患者の顔面に飛散する水に注意し、必要に応じてタオルなどで顔を覆う。

歯科医師：窩洞の最終仕上げを行い、わずかに水分が残る程度に乾燥する。

4. 色あわせ 必要器材：シェードガイド

歯科医師：衛生士、助手に色合わせをする旨を伝え、準備を指示する。

衛生士（助手）：照明を消して、シェードガイドを歯科医師に渡す。

歯科医師：シェードガイドを使い色あわせを行う。

適切と思われる色を患者に伝え、確認を行う。

患者：色を確認し、承諾する。

歯科医師：衛生士、助手に研磨をする旨を伝え、準備、アシストを指示する。

衛生士（助手）：患者を誘導して、本日の処置内容の説明を行う。

必要器材を用意する。

歯科医師：ダイヤモンドポイント、ホワイトポイント、ラバーカップなどで研磨を行う。

衛生士：バキューム操作を行う。

歯科医師：処置の終了を伝え、衛生士に患者への説明を指示する。

衛生士（助手）：手鏡を渡し、本日の処置内容を患者に確認してもらう。

器材の片づけを行う。

17. グラスアイオノマー修復

必要器材

- ① 歯面清掃用セット ② 高速・低速切削具 ③ う蝕検知液 ④ シェードガイド
- ⑤ 充填用グラスアイオノマーセメントセット ⑥ 紙練板
- ⑦ プラスチックスパチュラ ⑧ アイオノマー用形成充填器 ⑨ 光重合器
- ⑩ サービカルマトリックス ⑪ 防湿剤（バーニッシュ） ⑫ ダイヤモンドポイント
- ⑬ ホワイトポイント ⑭ ラバーカップ